森林と人をつなげたい
通信 森倶楽部21

2020年1月 第213号

私たちは、里山の自然に触れ、その地域の暮らしに学ぶ活動をしています。
長野県安曇野市の長峰山が主な活動場所です。
里山はたくさんの生きもののよりどころです。
たくさんの人と、この豊かな自然を分かち合い、未来に引き継いでいくことが願いです！

【長峰山NEWS】 あけましておめでとうございます。

長峰山山頂より望む　初日の出　（7時22分）

1月1日　天気晴れ。日の出7時頃と予測し、林道長峰線＆城山線は冬季閉鎖（12月20日から3月25日）のため県道302号線を通り、矢ノ沢経由で行けるところまで車で進み、6時半頃山頂へ到着。下界は-7℃と表示されていたから多分-10℃くらいだろうか。

展望台に上るとすでに先客がおり、長峰荘からヘッドライトをつけて登って来た人や、光城山経由で来た人など何人も集まって来た。毎年来ているという方もいらした。

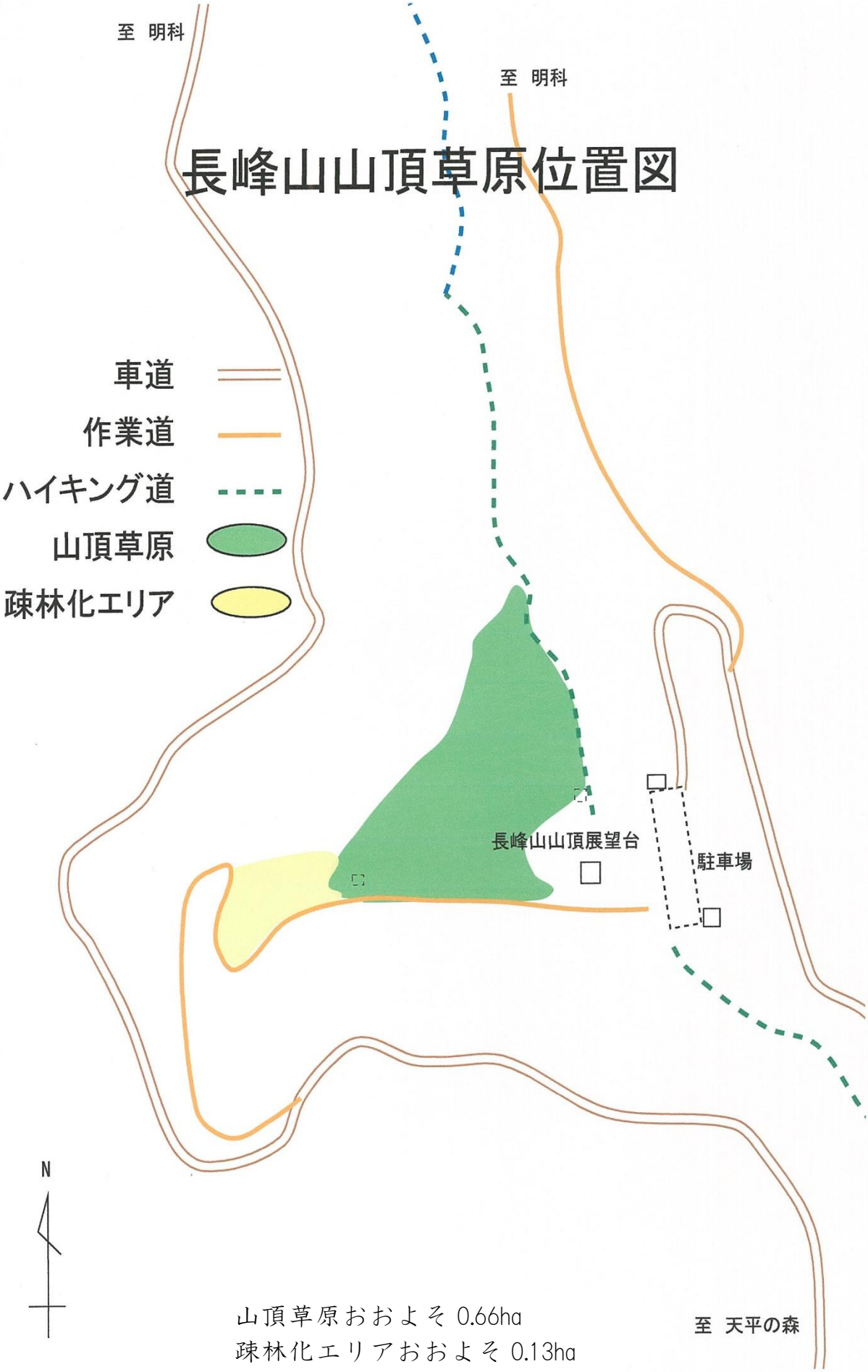
東の空が明るくなると西のアルプスの山々がピンクに染まり、間もなく日が昇り始めた。見とれていてシャッターが間に合わず思ったような写真は撮れなかったが、美しい**初日の出**をいつも活動しているこんなにも身近な場所で見られたことは感慨深かった。日が昇りきると川霧が湧き上がり、安曇野が霧で覆われ始めた。ゆっくり眺めていたかったが、正月の膳のしつらえが控えているので山頂を後にした。

帰る途中、山の神社（やまのかみしゃ）に詣で「今年も無事活動に参加できますよう。」とお願いした。矢ノ沢地区の方々が火を囲み集まっていらっしゃったので、ご挨拶に伺うと、お茶を勧められ、きのこ汁までご馳走して下さった。冷えた身体にジーンと沁みいり体も心も温かくなった。

今年はいいことが有りそうな気がして帰路に着いた。

さあ！今年もがんばろう！！

長峰山山頂草原位置図



山頂草原おおよそ 0.66ha
疎林化エリアおおよそ 0.13ha

長峰山山頂草原について

長峰山の山頂一帯は市有地で、展望台なども整備され、安曇野が一望できるすばらしい眺望地として多くの人が訪れています。山頂には草原が広がっていますが、実は現代において、里に近い1,000ｍ以下の標高で、まとまった面積の草原植生は大変貴重だといえます。

昭和30年代くらいまで、人里に近い傾斜地にはこうした草原植生はあちこちに存在していました。長峰山山頂の場合は、地元の方の聞き取りから、採草地として長く利用されていたことがわかっています。まだ化石燃料が普及する以前、牛馬は農家の大切な労働力でしたから、多くの農家で牛や馬を飼っていました。これら家畜の冬場の餌を確保するために、ススキを主体とする草原（採草地）が維持されていました。戦後すぐの 1947 年に米軍が撮影した空中写真（飛行機から撮影した写真）があります。そのころの長峰山の山頂は、アカマツの幼樹林などが混じりながら、かなり広範囲に草原が広がっていました。山頂一帯では、春先にはオキナグサがあちこちでみられ、お盆のころにはキキョウやオミナエシがたくさん咲いていて各家の子ども達が採りに行ったそうです。

しかしその後、化石燃料を動力とする農機具が普及したことによって、牛馬は必要とされなくなりました。昭和40年代以降は植林も盛んになり、草原は姿を消し人工林が増えていきました。これは全国的な流れであり、現在、草原はスキー場など非常に限られたところにしか残っていません。絶滅危惧種とよばれる動植物のなかには、草原性の種が多く含まれていますが、それは彼らの生息場所が草原とともになくなってしまったからです。

このような中で幸運なことに、長峰山は昭和40年代に山頂につづく林道が整備され、山頂は眺望地として位置付けられ、見晴らしを確保するために草刈りが続けられることになりました。面積は縮小したものの、草原が生き残ったのです。

そして今日も、この山頂草原には草原性の多様な生きものたちが命をつないでいます。植生調査からは歴史の古い草原であることもみえてきました。残念ながらオキナグサなど絶えてしまった種もありますが、長い間、森林になることなく育まれた草原の生態系が残されているのです。

この草原を未来に向けてよりよい形で残したい、と2017年から安曇野市の都市計画課公園緑地係を事務局として関係者（安曇野市の関係各部署、宮本地区、ハングライダー・パラグライダーの団体、三郷昆虫クラブ、田淵記念館虫の会、さとぷろ。サポーター、森倶楽部２１など）のネットワークが立ち上がりました。また同時に動植物の調査もスタートし、植物は藤田淳一氏（長

野県植物研究会)･松田貴子(森倶楽部２１)、蛾類は田島尚氏（信州大学)、蝶類は土田秀實（森倶楽部２１）が担当して実施しています。

毎年、年度末にはこれらの調査報告を兼ねて関係者が集まり意見交換を行なっています。その結果、これまで晩秋にだけ行われていた草刈りを2018年から夏季にも実施することになりました。この草刈りにはネットワークの関係者が協力して汗を流しています。

また同時に森倶楽部２１の提案として、草原の西側の樹林（疎林化部）にも手を入れて、林床を明るくし草原や林縁の植物が広がるようにしていこうという取り組みを進めています。2019年は市職員、清水地区の参加もあり、草原の拡張を目指す方向が共有されたのではないかと思います。

山頂草原疎林化部の整備

12月8日（日）

今年最後の活動として、長峰山山頂草原疎林化部のウワミズザクラ･カラコギカエデなどの萌芽枝や直径8cm以下の樹木を伐採した。伐採木よりホダ木・薪づくりを行い、枝の片付けをした。また、やり残していた展望台横南斜面の刈り草を片付けた。少人数での作業と思われたが、清水地区から3名が参加され、安曇野市職員2名にも協力していただき、寒い日であったが、会員11人を合わせて総勢16名の参加者で無事終了することができた。

【疎林化部の整備に参加して～感想①】

なかなか予定が合わず、参加できていなかった森林整備であったが、12月8日は予定が合い、参加を楽しみにしていた。

山頂草原は、フォーラムで取り上げた場所でもあり何かと気になっている部分であった。

当日は、天気も体調も良く清々しい気持ちで現場へ向かった。事前メールでは数名の参加者であろうと思っていたが、現場に着くと安曇野市職員、地元の方々、森倶楽部会員と10名を超える参加者がいたことに驚いた。山頂草原への関心の高さの現れであると思った。

私は、チェーンソーを使っての作業を担当した。ベテランの会員の方に木の選定と切り方を指導してもらいながら作業を進めた。その方は腰の具合が悪いと伺っていたので心配したが、当日はいつもの調子が戻っていたようで安心した。その指示にはいつも安心感がある。斜面でのチェーンソー作業は忘れていた部分もあり予想より重労働であったが、楽しさの余り休憩も忘れるくらい作業に没頭してしまった。疲労は事故につながることもあるので注意したい。最初は太陽の光が入りにくい環境であったが、除伐が進むにつれ周囲は明るくなり始め、作業終了後にはしっかりと光が行き届くくらいにさっぱりとした状態になった。切る・運ぶ・片付けるといった一連の作業を皆で分担し予定よりも早く作業を終了させることができた。そして、森の中、みんなで作業をするという、久しぶりに心地よい時間を過ごすことができた有意義な1日となった。

今後は、寒くなるが可能な限り活動に参加できるようにしていかなければと感じた。

やはり多くの人が集まると作業も早いし、より活動も楽しくなるのではないかと。

【疎林化部の整備に参加して～感想②】

今回は久しぶりの活動参加となり、長峰山山頂付近の疎林化整備でした。昨年の 6 月にも同様の作業をした所でしたが、季節が違うとまた別の山にいるようで新鮮でした。ウワミズザクラの直径 8 ㎝以下の木の伐採ということでしたが、樹高 5m 以上の大きなものもあり、倒すときには周囲への安全確認をしながらでした。時折、ツルが絡まったものは宙吊りになり、何名で引っ張ったりツルや小枝を切ったりして倒すことができました。太めの幹はナメコのホダ木、それ以外は薪としての活用ということで、適度な長さに切り揃えながら、作業は午前で終了となりました。作業の始まったころは肌寒かったのですが、時間が経つにつれ、快適な温度となり、山を登る以外に作業することも楽しめた半日となりました。また、今回切ったサクラの枝は薪として持ち帰り来年の冬に備え、昨年切ったサクラをストーブで燃やしながら、感謝してこれからも山の作業に参加していきたいと思います。

12月の活動から

12 月 3 日（火）【蝶の森活動】

9:30～12:00　活動場所：蝶の森、絆の森　参加会員：3 人

冬期の活動として樹木札作製をしようということで、今年 3 月 19 日に点検をしながらもそのままになっていた樹木札と杭の再点検を全活動範囲で行った。半年以上も経つと新たに朽ちが目立つ物が見られ、作製交換する必要のあるものが多くなった。

巡回していて、烏帽子峰尾根の遊歩道に台風による倒木処理後に倒れ、遊歩道を塞いでいた枯れマツがあったので、手ノコで切り刻み取り除いた。

13:00～15:00　活動場所：植樹地 A、天平自然園　参加会員：3 人

2019 年度の調査報告書に掲載するための調査として、オオムラサキの幼虫が見つかったエノキの確認作業と天平自然園のアカマツの松枯れについて、今年 3 月以降の追跡調査を行った。

3 月 24 日におこなわれたオオムラサキの越冬幼虫調査では、11 頭の幼虫が見つかっており、9 月 22 日の植樹木の活着調査では、全樹木に番号が付けられた。

12 月 8 日（日）【望年会】

17:00～　　場所：長峰荘　参加会員 10 人

今年は少ない人数であったが、例年通りに盛り上がった。一年の総括を含めた理事長挨拶の後、懇親会へと移った。懇親会では、それぞれが差し入れをしたが、欠席された会員からも一升頂いて皆感激していた。

会員作成のスライドで今年の振り返りをした後、幹事提案の余興では、幾つかのお題に沿って各自がその答えを紙に書いて説明するというものを行った。題は”私の好きなもの”などありきたりだが、その答えや周りからのつっこみもあり大いに賑わった。

部屋に引き上げてからの座談会もそれぞれの連れ合いなどが話題になり、一層身近に仲間として感じられた夜であった。

2020 年 1 月・2 月・3 月活動予定

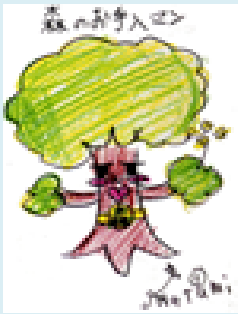
※未定の活動は例会で相談して決めます。

月	日	行　　事	集　合　場　所	時　間
1 月	11（土）	通信発送作業・例会	松南地区公民館	13:00～
	12（日）	矢ノ沢三九郎	きより館	9:00～
	26（日）	本編集会議　座談会	島内公民館	13:30～
2 月	1（土）	きずなフォーラム	塩尻文化センター	13:00～
	8（土）	例会	三郷交流学習センター	13:30～
	9（日）	樹木札作製	松南地区公民館	9:00～
	15（土）	本編集会議	笹賀公民館	13:00～
3 月	2（月）	森に学ぶ・調査報告書印刷・製本	庄内地区公民館	10:00～
	8（日）	樹木札作製	松南地区公民館	9:00～
	11（水）	通信発送作業・例会	未定	19:00～
	15（日）	森林整備活動	天平の森駐車場	9:00～

※2 月の通信森倶楽部２１はお休みします。３月通信をお楽しみに！

会員を募集しています！

見学や入会の申し込みは、
随時受け付け中です。
お気軽にお問い合わせください。
一緒によい汗ながしませんか？



◇会費　正会員：3,000 円　賛助会員：4,000 円

■編集者
特定非営利活動法人
森倶楽部２１　通信チーム
■発行人　理事長　永田　千恵子
■発行所　〒399-0033
長野県松本市笹賀 2497－3
■TEL&FAX　0263-58-0360
■メール　mori21@yumedia.jp
■URL　http://mori21.com/
■ https://www.facebook.com/morikurabu21